

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00298

研究課題名(和文) 対馬に於ける対外戦争関連言説の生成とその背景

研究課題名(英文) Generation of discourse related to foreign war in Tsushima and its background

研究代表者

徳竹 由明 (Tokutake, Yoshiaki)

中京大学・文学部・教授

研究者番号：30387609

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：長崎県の離島・対馬で編まれた文献が伝える「蒙古襲来」・「康応元年度の高麗襲来」等の対外戦争言説について、研究を行った。その結果として、基本的には近世期に対馬藩内で、『元史』・『東国通鑑』・『和漢合運』といった藩の文庫内に存したであろう島外の文献を基に対外戦争の大枠を叙述し、細部を島内の伝承のようなものをを用いて肉付けしていったものであることを明らかにしたつもりである。また対馬島内の対外戦争に関わる縁起説を持つ神社について、その縁起説を改めて精査するとともに、精力的に実地踏査を行った。その実地踏査の記録も公開を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

基本的には対馬に於ける対外戦争言説がどのように生み出されどのように発展・美化されてきたのかを扱った研究ではあるが、現代においても世界中のどこかで絶え間なく戦争行為が行われている現状を鑑みるに、この問題は地域や時代を超えて考察してみるべきものであろうと思われる。本研究はそうした考察が行われる際に、大いに参考になるものと思われる。

また科研費給費期間中に、対外戦争に纏わる縁起説を有する対馬の神社の踏査を実施し、現況を調査し写真撮影も実施した。その成果を後述の文章2本に纏めたが、これらの記録は、後年2020年前後の対馬の神社の様子を知る貴重な資料となるはずである。

研究成果の概要(英文)：I conducted research on foreign war discourses such as "Mouko-shurai" and "Kourai-shurai in the first year of Kouo", which are reported in the literature compiled in Tsushima, a remote island in Nagasaki prefecture. As a result, basically, in the early modern period, the Tsushima feudal clan, "Genshi", "Tougoku-Tukan", "Wakan-Goun", etc. I intend to describe the outline of the war and clarify that the details were fleshed out using something like the tradition of the island.

In addition, regarding the shrine that has the auspicious theory related to the foreign war in Tsushima Island, the auspicious theory was reexamined and the field survey was vigorously conducted. The record of the field reconnaissance was also released.

研究分野：日本文学

キーワード：対馬 対外戦争言説 蒙古襲来 康応元年度高麗襲来 対馬の神社

1. 研究開始当初の背景

(1) 私は以前に科研費や所属先の研究費の給付を受け、対馬に伝存する神功皇后「三韓出兵」言説について研究を行い、それらが実は来歴の古いものではなく、近世期に対馬藩の国学の徒にして宗教を統括する総宮司職を世襲した藤氏一門を中心に創作されたものであることを明らかにした。そこで神功皇后「三韓出兵」以外の対馬に伝存する対外戦争言説はどのような来歴を持つのが興味を持つに至った。

(2) また今までの研究の過程で何度も対馬を訪れる中で、島内の対外戦争関連伝承地を踏査し、現況を記録したいと考えるようになった。

2. 研究の目的

研究の目的は以下の2点であるが、主となるのは(1)である。

(1) まずは「蒙古襲来」・「康応元年度の高麗襲来」等、神功皇后「三韓出兵」以降の対外戦争について、対馬にはどのような言説が伝わっているのか調査し、それらの言説がどのような来歴を持ちどのように展開していったのかを明らかにする。

(2) 主として対馬の北部、及び中心地である厳原市街地の対外戦争に纏わる縁起説を持つ神社について、その縁起説を精査するとともに実地踏査を行い、現況を記録する。

3. 研究の方法

(1) 「研究の目的」で挙げた(1)を遂行する方法は、まずは対馬に関する主要文献である近世期の『津島紀略』・『対州編年略』・『対馬州神社大帳』・『津島紀事』等の他、旧長崎県立対馬歴史民俗資料館蔵宗家文庫、対馬市文化財課蔵藤氏文書、長崎歴史文化博物館蔵対馬関連資料を徹底的に調査し、対馬に関わる対外戦争言説を抽出する。そしてそれを戦役ごとに分類し、文献の編集された時代順に並べて考察し、それらの言説の来歴と展開の様相を明らかにしていくというものである。但し対馬歴史民俗資料館に代わる対馬博物館の開館の遅れ、藤氏文書の閲覧中止等、思うように進まなかった面も多々あった。

(2) 「研究の目的」(2)の遂行方法は、対馬の諸々の神社誌を繙いて対外戦争に纏わる縁起説を持つ各神社の縁起説を精査し、また神社の実地踏査を行い、写真撮影をも含めて現況を記録していくというものである。

4. 研究成果

「研究の目的」(1)に対応する成果は、主として以下の3点である(以下(1) 1～(1) 3という形で列記していく)。

(1) 1 対馬島北部の豊崎郷の、文永の役に関わる縁起説を持つ西泊村志々伎社・比田勝村軍殿神社・富浦村軍殿神社について、その『津島紀事』等が伝える縁起説の考察を行った。そしてまずは文永の役に際し豊崎郷に於いて実際に合戦があったかは、確かな文献がなく確認できないことを明らかにした。また3社の文永の役に纏わる縁起説が近世中期以前の文献には見られず、近世後期以降の生成である可能性が高いことを明らかにした。その上で対馬島外の平戸島志々伎神社関連文献に、平戸島の志々伎神社が弘安の役に際し蒙古軍撃退に神意を顕したことが度々伝えられていること、また対馬島内の文献に、軍殿神社の祭神を武人と記す例が多くあることから、志々伎社・軍殿神社共に対外戦争に結び付けやすい神社であったこと、また言説生成の背景には、当地を代々治めていた宗氏一門の比田勝氏を始め在地の人々の、蒙古襲来という歴史的事件に在地を結び付けようとする動きがあったのではないかと論じた。

(1) 2 『津島紀略』・『津島紀事』等の対馬の文献には、文永の役以前の蒙古使節による対馬島民誘拐事件、文永の役・弘安の役の間の近世期対馬藩士の祖先たちの対馬來島、弘安の役後の弘安7年8年にも蒙古が襲来した等々という言説(以下、文永の役・弘安の役とは直接かわらないので「蒙古襲来周辺言説」とする)が散見するが、その来歴を検討した。煩瑣となるので、この報告書では文永の役以前の対馬島民誘拐事件と弘安8年の蒙古襲来に絞って、その成果を簡潔に報告する。文永の役以前の対馬島民誘拐事件については、基本的に大枠は海外の『元史』・『東国通鑑』に依り、詳細を対馬の在地伝承のようなものによって肉付けしたものであろうこと、また弘安8年の蒙古襲来については、『和漢合運』が伝える弘安8年にも蒙古襲来があったとする説(場所は日本の何処とは特定せず)を基にして、それに詳細を対馬の在地伝承のようなものによって肉付けしたものであろうことを明らかにした。

(1) 3 康応元年度の高麗による対馬攻撃事件(以下「康応元年度の高麗襲来」)は、日本の中世期の文献には一切その言説を見出しえない対外戦争である。『対州編年略』・『津島紀事』といった近世期の対馬島の文献には、その康応元年度の高麗襲来事件に関わる言説が収載されるが、その来歴を考察した。そしてそれらの大枠が『高麗史』・『東国通鑑』に依るものであること、そして『高麗史』・『東国通鑑』が高麗軍の活躍を描写するのに対して、対馬の言説では両書の高麗軍活躍の言説をほぼそのまま利用して対馬軍の反撃の叙述を生成している(つまりは高麗軍の行為を対馬軍が行ったこととしている)こと、さらには対馬の在地伝承のような言説を用いて言説の肉付けを行っていることを明らかにした。

なお上記(1) 1から(1) 3のうち、(1) 3のみ論文化が未だ出来ていない。なるべく早期の論文化を目指したい。

(2) 「研究の目的」(2)に対応する成果としては、科研費給付期間中に主として対馬北部(比田勝・西泊等)・対馬中部(雞知等)そして対馬の中心地である厳原市街地の神社の实地踏査を、私費でのものも含めて実施した。このうち厳原市街地の神社の踏査結果については、縁起説の精査の結果と併せて、2度に分けて文章化した。北部・中部に関してはまだ縁起説の精査が完了していない。なるべく早期の文章化を目指したい。

《参考文献》

いずれも「研究開始当初の背景」に関わる拙論である。

- ・徳竹 由明「対馬・海神神社縁起説の形成」(『説話・伝承学』23号 2015年3月)
- ・徳竹 由明「対馬に於ける神功皇后「三韓出兵」伝承の形成 往路の寺社縁起説を中心に」(『説話・伝承学』24号 2016年3月)
- ・徳竹 由明「対馬に於ける神功皇后「三韓出兵」復路伝承の形成」(『軍記と語り物』52号 2016年3月)
- ・徳竹 由明「対馬の「金田城跡」築城・大吉戸神社創建を巡る言説と神功皇后「三韓出兵」譚」(『軍記と語り物』53号 2017年3月)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 徳竹 由明	4. 巻 69
2. 論文標題 対馬に於ける蒙古襲来周辺言説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『伝承文学研究』	6. 最初と最後の頁 91～102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳竹 由明	4. 巻 67
2. 論文標題 対馬豊崎郷の「文永の役」関連神社縁起説について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『伝承文学研究』	6. 最初と最後の頁 77～89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳竹 由明	4. 巻 56-2
2. 論文標題 対馬巖原市街地の神功皇后「三韓出兵」関連神社の縁起説と現況に関して 前編（「三韓出兵」往路編）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中京大学『文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 155～172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳竹 由明	4. 巻 57-1
2. 論文標題 対馬巖原市街地の神功皇后「三韓出兵」関連神社の縁起説と現況に関して 後編（「三韓出兵」復路編）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中京大学『文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 徳竹 由明
2. 発表標題 対馬に於ける康応元年度の高麗襲来言説を巡って
3. 学会等名 伝承文学研究会令和元年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳竹 由明
2. 発表標題 対馬藩に於ける中世文芸の受容 蒙古襲来言説を中心に
3. 学会等名 第七回名古屋中世文芸・歴史研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------